

## 「ありがとう」はツキを呼ぶ魔法の言葉

二〇一七年七月二十六日

バイブル・サービス

高 澤 まき子

皆さん、こんにちは。健康栄養学科の高澤と申します。よろしくお願いいたします。

今日は、これまで私の心に留めている本を一冊紹介したいと思います。それは『ツキを呼ぶ魔法の言葉』という本です。この本をご存知の方はいらっしゃるでしょうか。何人かいらっしゃるようですね。この本を書かれた五日市剛さんという方は、理系の大学出身者でしたが、アラブとイスラエルに興味があり、学生時代にその方面に旅行に行きました。そのときにおばあさんと出会い、その家に泊めていただいた際に、おばあさんから教えられた言葉があったそうです。それは「ツキを呼ぶ魔法の言葉があるのよ。これさえ唱えていれば誰でもツキっぱなしになるわよ」ということでした。その言葉は何かというと二つあります。一つは「ありがとう」、もう一つは「感謝します」です。何か嫌なことがあったら「ありがとう」と言いましょうということです。自分にとって不利益なときや、人から悪口を言われたときに「ありがとう」と言える状況ではありませんよね。では、どうして「ありがとう」と言いなさいというのでしょうか。それは嫌なことが起こると、嫌なことを考えてしまいます。そうするとまた嫌なことが起こります。不幸なことが重なると言うけれど、それは間違いなくこの世の法則です。けれど、そこで「あり

「ありがとう」はツキを呼ぶ魔法の言葉

がとう」と言うことで、その不幸の鎖が断ち切られるのです。それだけでなく、逆に良いことが起こるといいます。「災い転じて福となす」という言葉がありますが、「ありがとう」と言うことで、そこで不幸と思われる現象も幸せと感ずる状況に変えてくれるのだそうです。

皆さん、「ありがとう」という漢字はどのように書くでしょう。「有ることが難しい」あるいは、「難が有る」と書きます。ですから、いろいろな災い事があったときこそ「ありがとう」と言うと、実はそれが逆に人生の中で好転していくのです。例えば、電車の中で足を踏まれてしまいました。とても痛いのですが、「痛い、痛い」と言いながらも、心の中では「ありがとうございます、ありがとうございます」と言う訓練をしていると、人生は好転していくということなのです。そんなふう感謝するなんておかしいよね、と思いつつも素直に実行していると、素直な運命の人に切り替わっていくことなのです。

おばあさんはその後に「絶対に言っはいけない言葉がある」と付け加えました。それは、汚い言葉です。てめえとか、ばかやろう、死んじまえなど、あるいは、あのムカつくんだけど、ウザいんだけどというような言葉を使っはいけないのです。せっかく「ありがとう」と言っ、運命が好転に切り替わろうとするとそのような言葉を発すると、また逆に戻ってしまうことが起こるそうです。それから、人の悪口を言うことも絶対にだめです。あなたが自分の部屋で、一人できるときでさえも人の悪口を言っはだめなのです。人のことを怒ってもツキは逃げっはいてしまいます。私はこれを読み、ああそうかと思っ、もしかしたら食べ物も影響があるのかもしれないと思っ、ある実験をしました。

同じお茶を二本買っ来て、一つには「ばかやろう」と書いた紙を貼りました。もう一つには「ありがとう」と書いた紙を貼り、一晩置っておきました。そのお茶を使い、学生の皆さんに飲み比べをしてもらいました。もちろ

ん、その紙のことは何も言いませんでした。適当にA、Bと印を付けて、「Aのお茶、Bのお茶を味わってみてください。苦味はどちらが強いですか、甘みはどちらが強いですか、香りはどちらが強いですか、美味しいお茶はどちらですか」ということで検査を行いました。すると、その結果、「ありがとう」と書いた紙を貼っておいたお茶の方が、甘くて苦味が弱まって美味しいというように、分析上でも差が出たのです。学生たちには実験の後で、実は「同じお茶」と伝えました。二つのお茶の違いは、「ありがとう」と「ばかやろう」と書いた紙を貼っただけと話す、学生たちは「ええっ」と驚いていました。要するにそのことから言葉は大事に使うということを後で付け加えさせていただきました。

言葉は「言霊」と書くように「言葉に霊が乗る」と言われます。ですから良い言葉を使うと良いものが返ってくるのです。悪い言葉を使えば、結局は自分の人生にとって良くないことが起きてしまいます。良くないことも、実は良くなるための過程であるということです。後で、「ああ、実は、これを教えてもらうためにこういうことが起きたのだ」とわかってくることがあります。ですから、これからの皆さんの人生、できるだけ良い言葉を使ってみようか。

(健康栄養学科准教授)